

令和5年 第11回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和5年11月21日（火） 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和5年第10回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
舟山委員、一盃森委員 署名。
- 7 教育長報告
(1) 一般事務報告 なし
(2) 専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第32号 大河原町地域学校協働本部員の委嘱について
生涯学習課長より説明。
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。
- 9 その他
(1) 教育長報告（校長会資料による報告）
 - 1 校長会における教育長資料の扱いについて
校長会資料については、できる限り教職員にも読んでいただきたい。町教育委員会
が、これからの学校教育について、どんな方向で、どんな考えでいるかを理解いただ
くと推進しやすい。

2 学校運営に関する課題解決

各学校教育課題がある。しっかりと課題を整理した上で、学校運営協議会での熟議や、PTA本部役員会・総会等での議論を通して、保護者や地域と十分話し合っ
て課題解決に向け実行する。

通信表の所見について、通信表の果たす役割は何か。子供を認め励まし成長を支
えるものであり、保護者が最も知りたい我が子の情報である。

3 カリコ特任教授の不撓不屈の精神

(1) 「ディベアに財産隠し渡米」(R5. 10. 3 河北)

(2) よみうり寸評 (R5. 10. 7)

(3) 「地道な基礎研究 30 年かけ成果」(R5. 10. 13 読売)

(4) よみうり寸評 (R5. 10. 11)

ノーベル生理学・医学賞のカリコ氏。どんな困難にあっても諦めず不撓不屈の精神
をもって研究を 30 年も続けた。この研究が世界の人々の命を救うことになった素晴
らしい方である。

4 レジリエンス入門 (内田和俊)

レジリエンスとは、嫌なこと、辛いこと、悲しいことを経験することで、心が折れ
そうになったり落ち込んだりする嫌な気分を、もとの正常な状態に戻す力を言う。レ
ジリエンスの必要性。教職員や子どもたちにも言える。困難なことから挫折や逃げる
ではなく、乗り越える力を身につけてほしい。

5 1 単位時間における「評価規準」を指導案でどう表現するか

評価規準について、検討してほしい。各学校で様々となっている。メインの評価、
つまりクラス全員或いは大多数の子供を評価する機会は 1 単位時間に一つが実際の
であることは各校共通としたい。

6 『学校見聞録』(佐藤学)

「学びの共同体」は、一人の子どももつぶすことなく、一人の教師もつぶすことの
ない学校を実現することを可能にするという。大河原も近づいてきている。

7 『授業づくりで子どもが伸びる、教師が育つ、学校が変わる』(石井順治)

中学校の実践の紹介。中学校の先生が我流の授業を進めると、子どもも伸びない。
授業改善を核として、子どもに力を付けさせるのが基本である。

8 理科の課題と課題を踏まえた学習指導の改善・充実への取組

「初等教育資料」に掲載されたもので、小学校理科授業アイデア例が国から出されている。正答率が低かったところを取り上げ、このように授業改善すれば子どもたちが伸びるといふ例が示されたもの。いずれオンラインで出題・解答するC B T方式が導入されるので、授業改善が必要。

9 小学校算数『アクティブ・ラーニングを目指した授業展開』（笠井健一）

今回は笠井先生が考える算数の授業全体が分かるように、笠井先生の執筆されたところの紹介である。このような授業をすれば学びの質が向上するというので、多くの先生方にも読んでいただきたい。

10 部活動の地域移行に伴う責任の所在（神内聡）

外部指導者や兼職兼業教員の法的責任についての解説。様々な場面を想定し今後整備を進めていく必要がある。

11 その他

各校の授業、研修会、大会、事業の様子について資料により説明。

丹羽委員	P74 部活動の地域移行に伴う責任の所在の話。心配なことは、指導中に教員の過失により事故が生じた場合、原則として教員個人で法的責任を負うことである。このような事に、町も学校もきちんと対応できるようにしておく必要がある。部活動だけでなく、授業中などとも言える。先生方をしっかり守ってあげるのが大事。
	P3 無とはすべてを認める。自分の姿勢を整えるのが大事である。マインドフルネスの呼吸法。心にゆとりできる。穏やかな心持ちで対応できる。
舟山委員	学校運営に関する課題の話。交通安全指導。先生方は勤務時間外に行っているので負担を掛けないようにした方がよい。少しずつPTAなどに理解してもらい、先生方の負担がでないように持って行けたらよい。
	通信表の所見。確かに先生方の負担軽減があるかもしれないが、所見の欄は、いくら三者面談で話しても、中学生などは照れ臭い場合もある。書面で残る重みは大事である。私も、現役の時には普段から子どもたちをみて、所見の記入で親に喜ばれた経験がある。やはり、その場で言葉だけでは、心に残らない。子供の喜びも違う。通信表の意味を考えてほしい。
一盃森委員	私も通信表の所見の話は同感である。文字は残るといふのはその通りである。何年か後に見返した時に何が残るか、励ましの意味合いがある。指導と評価について、評価の事だけ考えて評定が出ているのは、何を見てこのような評定になったのか、テストの点数しか反映されないといふのは、評価の在り方

は如何なものかと思う。子供を指導して、その様子について先生が、どのように思っていたのかを子どもに伝えるのが大事。ぜひ、所見の数は減らさないでいただきたい。

P15 佐藤学先生の話。地道な取り組みが結果に繋がった。教育長が自ら具体的に示していただいているのに敬意を表す。大河原の5つの学校の先生方が、地域の皆さんと一緒に学校を作っていくことができれば、人が変わっても根付いていく。教育文化に繋がる。壮大な取り組みであり、子どもたちがこれからの世の中を生きていく上で左右する大きな取り組みである。

丹羽委員

大谷翔平のごみ拾いの話。「人が捨てた幸運を拾う」という。言葉だけではなく実践するのが大事。

小山委員

学校運営の話。以前は、ボランティア感謝の会などがあった。学校も地域の方に感謝の気持ちを伝える場面があった。交流があるともっと地域の協力が得られるので、また、地域を引き込んで繋いでいくのが良い。

通信表の話。年2回の所見は残してほしい。先生が書いてくれる言葉は特別である。記録があると子供も嬉しい。

学校見聞録の話。先生方へのアンケートなどもあれば良い思う。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和5年12月15日(金)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時30分

令和5年12月15日

署名委員

署名委員